



授業の様子(三国尋常高等小学校)

～本県は、大正期も教育先進県～

新教育の探究者

教育者 木下竹次・三好得恵の実践

ま
な
び
や



授業の様子(三国尋常高等小学校)

明治後期から大正期に入ると、欧米の新教育主張が全国的に波及し、デモクラシー思潮と結びつき活発な教育改革運動に展開しました。子ども主体の教育のあり方を目指し、教師の画一指導から児童中心の自由な教育活動が華やかに実践されました。

当時県内では、福井県師範学校附属小学校や三国尋常高等小学校を中心に、各校で研究授業、相互参観、教科研究会が活発に行われ全国から多くの視察者が訪れました。

三国尋常高等小学校の教育実践は、五つの標語と四つの自由を掲げ所として展開さ

残念ながら『三国町百年史』によれば、中学校入学の激化のための入学準備と戦時体制下の教育の影響を受けるようになり、さらに一九三一(昭和6)年出火による校舎焼失、一九三三(昭和8)年三好校長の退職もあり衰退していきました

五つの標語	カーバイ カーバイ カーバイ カーバイ カーバイ	予定(き)めて行く 解(と)いて行く 練(ね)って行く 行(や)って行く 協(あ)って行く
四つの自由	学習題材選択の自由 学習方法建設の自由 学習材料進展の自由 学習資料蒐集の自由	
注) 三好得恵『自発教育案と其の実現』による。		

れ、実践記録からは子どもたちが自主的に学習活動を展開し、自発教育が実現された様子が見て取れます。しかし、



研究会の様子(三国尋常高等小学校)

秋の企画展 10月8日
鯖江女子師範学校での学び



▼三好得恵(一八八〇(M13)～一九五九(S34)年)
福井県師範学校を卒業、奈良女子高等師範附属小で木下の下、分団学習を実施した後、

三好得恵

みよし・とくえ
鯖江市出身



▼木下竹次(一八七二(M5)～一九四六(S21)年)
福井県尋常師範学校から東京高等師範学校に進み、鹿児島師範などに勤務した後、一九

木下竹次

きのした たけじ
勝山市出身

一九一九(大正8)年に三国尋常高等小学校(現三国南小)の校長に迎えられました。

三国小学校では、自主学習時間を設定した独自の新教育法が、「自発教育」として14年間実施されました。視察に訪れた米国の教育者パーカストから絶賛され、一九二五(大正14)年には樺太から沖縄まで、全国から二〇〇〇人を超える参観者がありました。

【参考】まなびや第31号参照『師範学校』って、なに？昔の教員養成学校・学習風景

一九(大正8)年、奈良女子高等師範学校の附属小学校主事(校長)に就任しました。

同校では、教師主導の「教授」から児童が主体的に学習する「学習」への転換を唱えて「合科学習」が実施され、全国から注目されました。

木下の実践は、大正自由教育の中心的指導者として小学校教育に大きな影響を与えました。